座談会

義務教育段階からの「学び直し」の課題と実践

― 国語を中心として ―

2013年度に全面実施となる高校の新学習指導要領に「義務教育段階での学習内容の確実な定着」を重視する文言が明記された。国語の指導で義務教育段階の学習内容が身に付いていない生徒にどのような「学び直し」を実践しているのか。3人の先生方に現状と課題、実践内容について聞いた。

生徒の学びへの意欲を信じることが大切

編集部　高校現場の実態を踏まえて、新学習指導要領には「学び直し」の機会の設定が記されました。今後、学び直しに取り組む学校が留意すべきことを教えてください。

北森　最も大切なのは、教師がしっかりとしたビジョンを持つことだと思います。「社会で必要な力を付けさせたい」「基礎学力のないまま、高校を卒業させてはいけない」という思いを教師全員で共有しなければ、指導の足並みを揃えることは出来ません。

鈴木　学習意欲に乏しく、教師に対して反抗的に見える生徒でも、根本的には勉強が出来るようになりたいと思っています。周りの大人に温かく包みこんでもらうことによって信頼関係が生まれ、自然と前を向けるようになるのです。良い教材を用意することはもちろん大切ですが、生徒と教師の信頼関係を築けるかどうかが、学び直しの成否を左右する最大の鍵になるのではないでしょうか。

語彙力の低下により人間関係に問題が

編集部　ご勤務されている高校の入学時における国語力の課題を教えてください。

鈴木　生徒の語彙の少なさは、非常に大きな問題だと思います。気に入らないことがあると、何でも「うざい」の一言で済ませてしまいます。自分の感情を表現する言葉があまりにも乏しいため、友だちとけんかをしてもうまく関係を修復できません。

　卒業後に就職しても早期離職をしてしまう原因の多くは、人間関係にあると言われていますが、それはコミュニケーション能力の不足によって起こるものです。コミュニケーション能力は「生きる力」の根幹ですが、今の生徒にはその根底にあるべき語彙力が著しく不足していると感じています。基本的な漢字や簡単な文章が書けず業務日報などを作成できないために、解雇された例もあります。

藤原　確かに、抽象概念や抽象語が身に付いていない生徒が増えていることは大きな問題です。そのために、自分の感情を上手に言い表すことが出来ないのでしょう。また、言葉の重要性や怖さというものを自覚していない面もあるようです。話し方ひとつで、自分の能力や人間性まで評価されることに気付いていないのです。

三重県立朝明高校

鈴木建生 Suzuki Takeo
教職歴33年。同校に赴任して9年目。

学校プロフィール◎全日制。普通科。2年生からビジネス・進学・福祉・アスリート・自然環境の4コースを開設。大学・短大・専門学校への進学率は約3割。

三重県立飯野高校

藤原 歩 Fujiwara Ayumu
教職歴26年。同校に赴任して5年目。

北森 晃 Kitamori Akira
教職歴26年。同校に赴任して4年目。

学校プロフィール◎全日制。応用デザイン科・英語コミュニケーション科を設置。大学・短大・専門学校への進学率は約6割。

前任校は進学校でしたが、そのような学校でも6、7年程前から、敬語を使えない生徒が増えていました。言葉の力の低下は、全国の子どもに共通する現象だと思います。家庭であまり会話を交わしてこなかったり、読書をする機会に恵まれなかったりと、問題の根は深いです。高校卒業後すぐに就職する生徒にとっては、高校の国語教育が社会に出た時に人間関係を築いていける力を身に付ける最後のチャンスとなるのです。

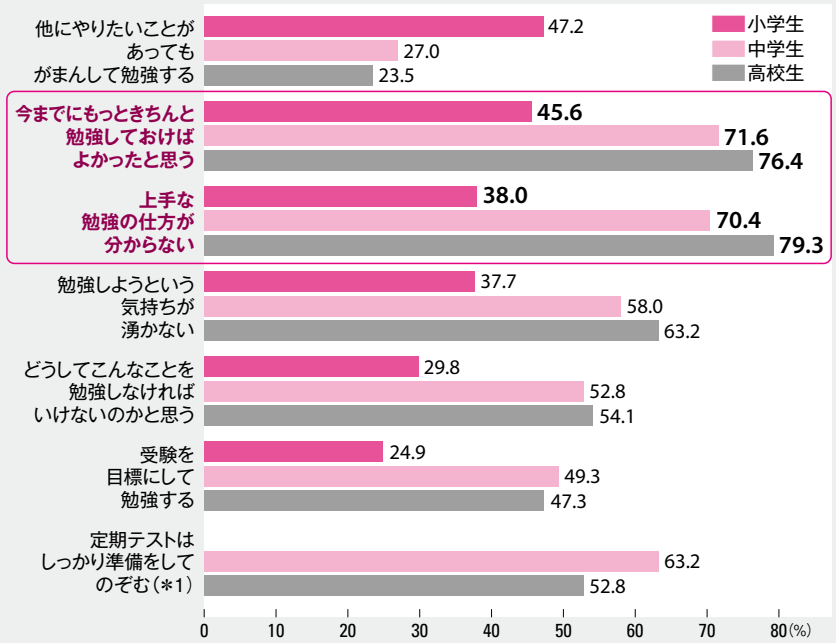
鈴木　抽象概念は自分の生き方や在り方を考える上でも重要です。自分をステップアップさせていく上で大切なことは、自分自身の現状を言葉で捉えて、何が足りないのか、何をすべきかを考えることです。大人でも喜びや悲しみ、悔しさ、期待、失望などの感情に振り回され、同じところをぐるぐると行ったり来たりすることがあります。自分を客観的に見つめ成長していくには、まず自分自身の感情を表現する言葉を見つけ、それを使いこなす力が必要です。

北森　生徒の語彙力、言語運用能力の低下もさることながら、私は中高の国語教育の在り方にも課題があると思います。表現力を身に付けるにはアウトプットをさせなければいけませんが、国語の授業は一斉授業でインプットさせることに偏りがちです。私自身の反省も含めて、授業で表現力を鍛える場をもっと用意しなければならないと感じています。

運用につながる高校に合った学び直しを提示

編集部　国語の学び直しの目標は何でしょうか。

図　勉強への取り組み（学校段階別）



※数値は「とてもそう」と「まあそう」の合計　＊1 回答は中学生と高校生のみ

中学生で、「今までにもっときちんと勉強しておけばよかったと思う」「上手な勉強の仕方が分からない」の肯定率（「とてもそう」+「まあそう」の合計）は7割を超えている。高校ではその傾向がどちらの項目でも強まる

出典／Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」（2009年調査）　■調査期間：2009年8～10月　■調査対象：小学生3,561人（18校）、中学生3,917人（12校）、高校生6,319人（13校）

北森　一つは、これまで話してきた社会で生きていく力の育成、もう一つは小・中学校の学習内容と高校の学習内容との接続です。1年生で小・中学校段階の学び直しを終え、2年生には高校段階の内容に入れるようにするのが理想です。そのためには、高校の教科書を読む上で欠かせない抽象概念を、しっかり身に付けさせることがポイントになると思います。

鈴木　指導が難しいのは、国語には数学や英語のように中高にわたる系統的なカリキュラムが組まれていないため、高校における学び直しの方法が確立されていないことです。

本校で学び直しに取り組み始めた当初、基礎が身に付いていない生徒なのだから、小・中学校レベルの簡単な内容に取り組ませればよいだろうと考えていました。しかし、課題が小学生レベルの問題だと分かると、生徒はたとえ自分がその問題を解けなくても真面目に取り組もうとしなくなります。小学校時代なら、漢字の書き取りのような機械的な作業にも熱心に取り組みますが、高校段階になると考えさせる教材を用意する必要があると実感しました。

北森　確かに、いくら学力が身に付いていない生徒でも、単純な学習だけを強いては続けることは難しいでしょう。漢字の書き取りを黙々とさせることも大切ですが、意味を理解せずにただひたすら書き取りを繰り返すだけでは、運用能力は身に付きません。漢字の成り立ちや使い方も一緒に教え、興味・関心を喚起してはじめて学びが定着するのはないでしょうか。

藤原　単語や敬語などを単体で教えても、国語の力は伸びません。生徒の国語力が伸びる時は、他の能力と一緒に伸びていくものです。小説や評論などさまざまな分野の文章を読み、俳句や漢詩などの文芸作品を正しく理解するためには、英語や地理・歴史、理科、家庭や保健体育に至る、あらゆる教科・科目の知識が必要です。いろいろなことに興味を持って貪欲に知識を吸収していく生徒が、結果的に国語の力も伸びていくのだと思います。教師もさまざまな知識と関連付けて教えていく必要があるのです。

生徒の学習意欲を高める工夫が大切

編集部　高校生の発達段階に適切な内容や教材を精選することが大切ということでしょうか。

北森　その通りです。ただし、それ以上に大切なのは、生徒の意欲や興味・関心をいかに引き出すかということです。学び直しが必要な生徒の大半は、何かしらの事情があって小・中学校時代に学習する機会に恵まれていなかったのだと思います。勉強が出来たという達成感や、教師に認められたという経験に乏しいため、学習への意欲を持つことが出来ないまま高校まできてしまったのです。まずは生徒に学びに向かう姿勢を持たせることこそ重要であり、その上ではじめて教材が生きてくるのだと思います。

鈴木　私も、学び直しと学習意欲は表裏一体の関係にあると思います。どんなに良い教材を使っても、生徒が取り組まなければ意味がありません。何を教えるかということよりも、教師がいかに生徒にかかわっていくか、生徒同士がいかにかかわり合えるかということが、学び直しを成功させる大きなポイントになると思います。

編集部　生徒の学習意欲を高めるにはどのような工夫が考えられるでしょうか。

北森　生徒の「文化」に教師が近付いていくことが、一つの方法ではないでしょうか。例えば、恋愛話は生徒の関心が高く、古典文学でもテーマによく取り上げられているので、「つかみ」として話す方法が考えられます。生徒の興味・関心や生活との接点を持たせることによって、実感を伴って教材に取り組めるようになります。

鈴木　以前、授業で『大和物語』の「姨捨」を取り上げた時にちょうど、介護を苦にして親を殺めるという事件が起こりました。事件の新聞記事を読ませてから授業に入ったところ、生徒は非常に高い関心を示しました。千年以上の昔に同じような問題が起きていたと

知り、自分たちとは無関係の世界のことだと感じていた古典文学をリアルに受け止めることが出来たのです。まずは生徒の目線に立つこと。「何で意欲を持たないんだ」と教師の一方的な押し付けではなく、生徒が興味を持てるような工夫が必要なのです。

なぜ学ぶのか目的を明確にすることで意欲を高める

藤原　「この先生の授業を受ければ確実に力が伸びる」という実感を生徒が持つことも大切だと思います。「自分にも文章が読める」「文章の構造が理解できる」と思わせることが出来れば、その授業は成功です。そのためには、文章読解の基礎となる文法にも取り組んでおかなければなりません。

編集部　文法に苦手意識を持つ生徒は大勢います。拒否反応を起こさせないための指導の工夫はありますか。

藤原　英語で文法の構造を学習しているので、それに置き換えて説明することによって生徒の理解が進むこともあります。古典で「べし」が出てきたら、「それは英語でいうとwillのことだよ」と説明する。そちらの方が案外、生徒には分かりやすいようです。英語と古典の文法を整理して対照表をつくれば、英語の得意な生徒にはすんなり頭に入っていくかもしれません。また、現代文においても英語の学習を通じて、日本語の特徴的な構造を理解することもあるようです。

北森　もう一つ大切なことは、なぜこれを学ぶのかをきちんと説明しながら進めることです。「動詞の活用は、もっと難しい助動詞の識別をする際に生きてくる」というように、文法を学ぶことによってどのような力が付くのか、今学んでいる単元がこの先のどこにつながっていくのか、ということを生徒に示しながら授業を進める配慮が欠かせません。

鈴木　私も、学習の目的を明確にすることは、学習意欲を高める上で欠かせない要素だと思います。感情を表す言葉を学ぶことが、自分の人生を豊かにすることにもつながるように、必ず生徒に授業の目標を伝え、この時間でどのような力を付けられるのかを明確にしてから授業を始めるように心掛けています。自分の人生にかかわる必要不可欠な学びであることが分かれば、生徒は前向きに授業に取り組みます。

編集部　目的が明確だからこそ、「出来た」という達成感も得られ、それによって学習意欲も高まるというわけですね。

藤原　学び直しの目標は、成功体験にあると思います。小・中学校で出来なかった内容を、諦めずに高校でもう一度取り組み、出来たという達成感を味わう。たとえ学んだ内容は忘れてしまったとしても、とことん学んでいれば「自分にも出来る」という成功体験が生徒の中に残ります。学ぶことで自分は成長していく、そういう人としての在り方、生き方のようなものを、学び直しを通して気付かせてあげたいと思っています。

北森　国語は社会に出てからも必ず使います。どの生徒にとっても生きていく上で必要な力なのです。そうした意味で、国語の学び直しは「生きていく力を養う」という命題を担っています。

鈴木　成功体験の付与と確かな学力の育成により、社会で生き抜く力を付けさせることこそ、学び直しの意義なのだと思います。

編集部　本日はありがとうございました。